

# 荒川公園周辺再整備基本計画策定に係るサウンディング調査

## 結果概要

令和8年3月3日

熊谷市総合政策部スポーツタウン推進課

### 1. 調査の目的

熊谷市立市民体育館（以下「体育館」）及び隣接する荒川公園等の再整備基本計画を策定するに当たり、民間事業者等の柔軟な発想や幅広い意見・アイデア等を整備計画に反映することでより実現性の高い基本計画をとりまとめるとともに、来年度に実施予定の民間活力導入可能性調査において検討すべき課題等を把握することを目的として実施したものです。

### 2. 調査の実施経過

内容	日時
実施要領の公表	令和7年12月22日（月）
参加申込書提出期限	令和8年1月13日（火）
アンケート票の提出期限	令和8年1月16日（金）
結果の公表	令和8年3月3日（火）

### 3. 参加者

参加者数：24者

（内訳：設計5者、建設9者、維持管理5者、運営2者、事業統括3者）

### 4. サウンディング結果の概要

#### （1）体育館の施設配置への主な意見

- ・メインアリーナとサブアリーナを分棟とした場合、興行と市民利用を両立しやすいが、メイン・サブアリーナの一体利用はしづらくなる。その他、整備・運営コストの増加や、道路の乱横断等が課題。
- ・メインアリーナを現公園側に整備した場合は、現体育館の利用を継続することができる。
- ・メインアリーナとサブアリーナを一棟にまとめた場合、利用者動線は分かりやすい。
- ・現体育館の敷地に体育館と駐車場をまとめて整備した場合（1階に駐車場、2階以上にアリーナ）、運営がしやすく公園への影響は最も少ない。浸水時も安全に避難できるなどのメリットがある。一方、整備コストは増えるほか、周囲の日照への影響や圧迫感等は懸念される。また、利用者の縦動線は課題。
- ・現体育館の敷地に体育館をまとめ、現公園側に駐車場を整備した場合、整備コストは最も低くなると見込まれ、利用者動線が分かりやすく運営もしやすい。
- ・当初から延床面積を抑えて整備した場合、開館後に諸室が不足するリスクがある。

## **(2) 観客席数の規模への主な意見**

- ・アマチュアレベルの全国大会までであれば、3,000～4,000 席あれば足りるのではないかと。
- ・プロ、興行利用を視野に入れる場合には 4,000 席以上が望ましい。
- ・固定席を増やしすぎると管理コストが上がるリスクもあるため、可動席を組み合わせることが合理的。

## **(3) 駐車場台数への主な意見**

- ・平常時も 100 台程度は必要ではないかと。
- ・大規模大会、イベント時は周辺の駐車場と連携したいが、駅利用者で既にある程度埋まっている可能性を懸念する。
- ・大規模大会、イベントを実施するには、大型バスや大型トラック等が進入できる駐車場が必要。
- ・駅から近い好立地のため、公共交通機関の利用を前提として台数を抑えることも考えられる。

## **(4) 新たな公園施設に関する主なアイデア・意見**

- ・休憩場所や日陰、カフェなど滞在性を上げるもの
- ・大型遊具や屋内遊び場など子ども連れ・家族向けの遊び場
- ・屋外コートやランニングコースなどのスポーツ・健康増進機能
- ・イベント広場やキッチンカーに対応した設備など、公園の賑わいを生み出すもの

## **(5) 荒川緑地との連携に関する主なアイデア・意見**

- ・体育館へのランナー、サイクリスト向け更衣室、シャワー設備の設置
- ・スポーツ体験、環境イベント、フードイベントの共同開催
- ・トイレ、休憩所などの荒川緑地利用者への開放
- ・避難場所としての連携

## **(6) 環境負荷の低減や防災・減災に貢献する施設とするための主なアイデア・意見**

- ・「ZEB Ready」達成は可能と見込むが、「Nearly ZEB」達成は大空間なため難しくコスト大幅増に繋がる。
- ・防災、減災や ZEB 取得の条件はコストに大きく影響するため、事前に明確化が必要。
- ・太陽光、蓄電池、高効率空調、高性能断熱などの省エネ設備の導入
- ・浸水リスクに備えた設備室や防災機能の上層階配置、防災設備（非常電源・備蓄）の充実

## **(7) 本事業への関心（参画意欲）**

- ・参加を検討したい：8 者
- ・条件が整えば参加したい：12 者
- ・どちらともいえない：3 者
- ・複数回答：1 者

## (8) その他本事業への意見・要望等

### ア 基本計画に関する意見・要望等

- ・熊谷市は県内屈指のスポーツ文化の中心地であり、アリーナスポーツ施設のさらなる充実が望ましい。
- ・隣接する熊谷桜堤、荒川緑地等については、「かわまちづくり」の拠点として本事業と連続性、一体的に整備することが望ましい。
- ・現体育館と現公園の間の道路を廃道に出来れば計画の幅が広がる。
- ・計画敷地や整備時期・順序等を柔軟にし、重視する機能を絞り込んだ方が事業者からの提案の自由度が高まる。
- ・体育館の利用休止期間が発生することに対する考え方を整理する必要がある。
- ・配置案を比較、検討する際には、市民との合意形成可能性を評価軸に追加することが望ましい。

### イ 情報開示や官民対話に関する意見・要望等

- ・今後の事業化スケジュールについて早期に開示してほしい。
- ・なるべく早期に想定事業費規模を開示してほしい。また、業務別の事業費も参考情報として開示してほしい。
- ・サウンディング等官民対話の機会を継続的に設けてほしい。

### ウ 事業条件等に関する意見・要望等

- ・事業者公募の際に競争環境を確保するためには、物価、人件費の高騰を適切に反映した事業費の設定が必要。公募期間中の物価変動についても織り込んだ物価スライド条項が必要。
- ・不可抗力リスクや金利、保険料の変動リスク、施設損傷リスク等を過度に事業者にもつたせることは望ましくない。
- ・光熱水費は予測が困難なため、実費精算又は市負担としてほしい。
- ・PFI手法を採用した場合も、整備費の前払いや中間払い、竣工時一括払いを検討してほしい。

## 5. 今後の方針・予定

本調査において得られた意見を踏まえながら、再整備基本計画の作成を進めます。